

スチール! & アイデア! ヨドコウ

〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号
TEL.(06)6245-1111 (大代表)
<http://www.yodoko.co.jp/>

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月開催
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要あるときは、予め公告して定めます。
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告 ※当社ホームページをご覧ください。 http://www.yodoko.co.jp/

〈郵便物送付先・電話お問合せ先〉

	平成20年12月30日まで	平成21年1月5日より
郵便物送付先	〒135-8722 東京都江東区佐賀1-17-7 みずほ信託銀行 証券代行部	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先	フリーダイヤル 0120-288-324 (変更ありません)	

※株券電子化移行後(平成21年1月5日より)

- 株券電子化移行後は、各種の請求、届出等は、原則として株主様が口座を開設されている証券会社等を通じて請求・届出していただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡願います。但し、未払配当金のお問合せは、株主名簿管理人としてのみずほ信託銀行が引き続き受け付けいたします。
- 特別口座に記録された株主様からの単元未満株式の買取請求、買増請求、振替請求等は、特別口座管理機関としてのみずほ信託銀行の支店で取次をいたします。

※株券電子化に係る買取請求、買増請求のお取扱いについて

株券電子化への移行に伴い、施行日前後における単元未満株式の買取請求、買増請求につきましては、一定期間受付できないこともございますので、お含みおきいただきますようお願いいたします。

- ◎ 詳しくは、上記「電話お問合せ先」にお問合せください。

株主の皆様へ

Y O D O G A W A S T E E L W O R K S

第110期 中間事業のご報告

第 2 四 半 期

平成20年4月1日～平成20年9月30日

Steel sheet / Building material / Roll / Grating

株式会社 淀川製鋼所
証券コード5451

『ヨドコウ迎賓館』
株主様
入館無料券

本券1枚につき、
3名様まで無料で
ご入館いただけます。

平成21年6月末日まで有効

重要文化財

ヨドコウ迎賓館のご案内

旧山邑家住宅



フランク・ロイド・ライト 設計

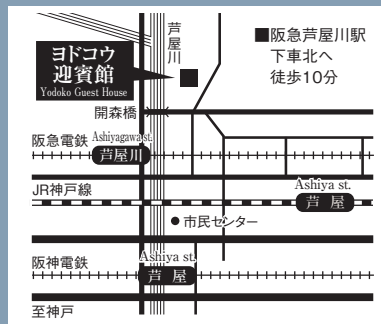
開館ご案内

開館日・毎土・日・水曜日と祝日
開館時間・10時～16時(入館は15時30分まで)
入館料・大人・大学生は500円 団体/400円(30名以上)
小・中・高校生は200円 団体/100円(30名以上)

問い合わせ

淀川製鋼所 広報課 06-6245-9103
ヨドコウ迎賓館 0797-38-1720

URL <http://www.yodoko.co.jp/geihinkan/>



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の第110期 第2四半期(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)が終了いたしましたので、営業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成20年12月



代表取締役社長 國保善次

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発する金融危機が实体经济に大きな影響を与えている中で、日々経つにつれ悪化の度合いを深めております。

鉄鋼業界におきましては、粗鋼生産量は極めて高い水準を維持しましたものの、当社グループの主力製品であります表面処理鋼板の需要は減退しており、大きく落ち込んだ新設住宅着工件数に回復の兆しは見られるものの、特に非住宅部門での鋼材需要は、建築用諸資材の価格高騰、景況悪化による投資意欲の減退等で、厳しい需要環境が続いております。

このような経済環境下において、当社グループでは、主原料の購入価格の大幅な値上がりによる販売価格の改定により吸収するため、顧客のご理解をいただくべく努めて参りました。

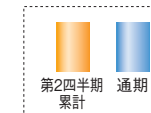
また、市況悪化による販売量の減少に対し、積極的な営業活動を展開するとともに、輸出による拡販、一層のコストダウンにも注力し相応の成果を挙げる事ができました。

以上のことから、第2四半期連結累計期間の売上高は、1,084億円(前年同期比7.2%増)となりました。

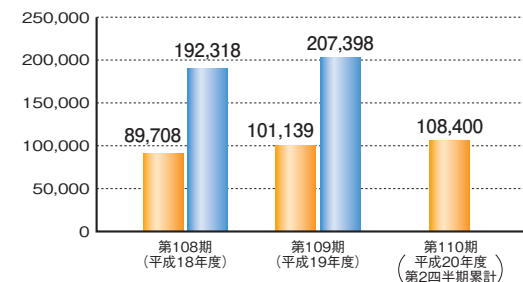
また、利益面では、販売価格の改定、主原料の熱延鋼板の在庫評価による影響および高止まりしていた亜鉛価格の下落等があったことから、第2四半期連結累計期間の営業利益は、82億29百万円(前年同期比32.9%増)、経常利益は89億66百万円(同23.4%増)、中間純利益は38億41百万円(同3.0%増)となりました。

なお、当社は平成20年11月11日、溶融55パーセントアルミニウム亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯(塗装品種および非塗装品種)について、独占禁止法違反(不当な取引制限)容疑により公正取引委員会から告発されました。このような事態になりましたことを厳粛に受け止め、法令遵守の徹底および当局の捜査に対し、真摯に対応してまいります。

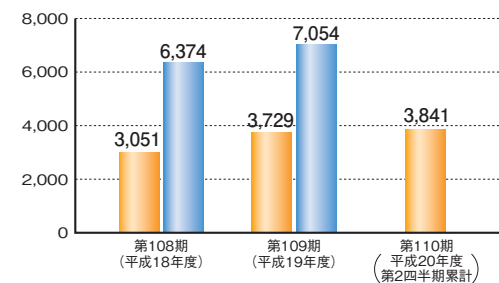
株主の皆様には多大なご迷惑、ご心配をお掛けしておりますことを深くお詫び申し上げます。



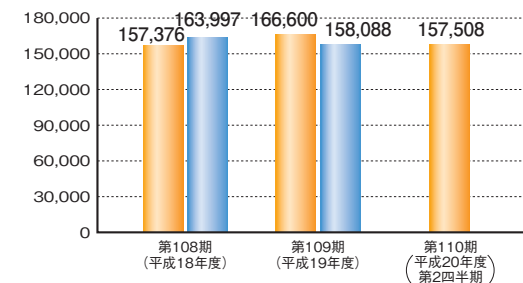
売上高 (単位:百万円)



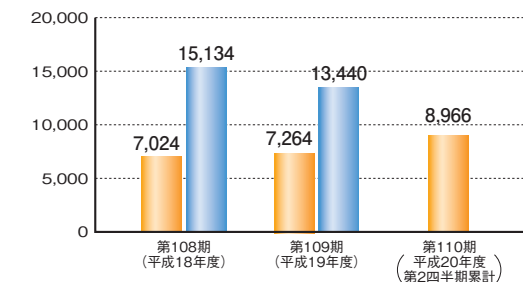
当期純利益 (単位:百万円)



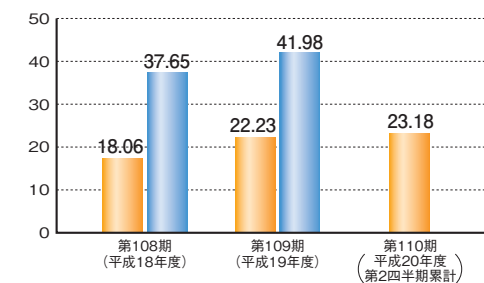
純資産 (単位:百万円)



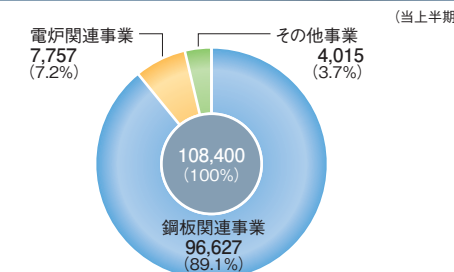
経常利益 (単位:百万円)



1株当たりの当期純利益 (単位:円)



当期セグメント別売上高構成比 (単位:百万円) (当上半期)



スチール! & アイデア! ヨドコウ

単位: 百万円
% : 前年同期比



鋼板関連事業

主原材料の熱延鋼板は、鉄鉱石、石炭、スクラップ等の高騰を受け大幅に値上がりしましたが、販売価格の改定に努めました結果、売上高は、前年同期比で増収、利益面では、在庫評価による影響と亜鉛価格の低落もあり、前年同期比で増益となりました。

なお、台湾子会社のセンユースチール社の売上高は、円換算では為替レートの影響により前年同期比で減収となりましたが、現地通貨ベースでは上半期として過去最高の実績となりました。同社は、第1四半期においては、熱延鋼板の急激な価格高騰により利益は大き

鋼板業務では、国内および輸出ともに好調 海外子会社(センユースチール社)の貢献もあり増収増益

く圧迫されましたが、第2四半期に入り販売価格改定が進展し、第2四半期累計期間での営業利益は、前年同期比で増益となりました。

前年下期に稼動したPPT社(タイ国)の粉体塗装PCMラインは、新興国を中心とした冷蔵庫需要によるPCM鋼板への需要が旺盛なことから、供給拠点として大きく拡販に寄与しています。



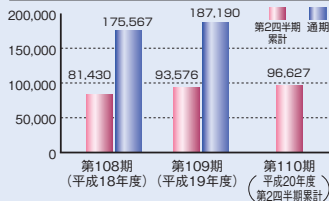
粉体塗装PCMライン

鋼板関連事業

主な製品

冷延鋼板、磨帯鋼、カラー鋼板、ガルバリウム鋼板ほかの表面処理鋼板、建築材料(屋根材、壁材など)、建設工事の設計および施工、エクステリア商品(物置、ガレージ、自転車置場、ダストビットなど)

売上高推移 (百万円)



鋼板業務

建材業務

建材商品(屋根・壁材)は、需要低迷により伸び悩みましたが、建材業務全体としては、前年同期比で増収増益となりました。

エクステリア商品は、建築確認の厳格化に伴い、当社の蓄積技術が奏功し、物置を中心にハウス、倉庫等の大型商品が伸張し、また、他社に先駆け発売した家庭用ゴミ分別ダストビットの好評もあって、売上高は、前年同期比で増収となりました。なお、下期は、「防火地域・

準防火地域」にも設置できる業界初となる防火ガレージの開発に注力します。

工事グループは、中小物件が極端に減少している中、IT関連企業や物流倉庫等の大型物件が完工したことで、売上高は、前年同期比で微増となりました。なお、新型航空機の格納庫(東京)、西日本最大のショッピングセンター(滋賀)、甲子園銀傘屋根工事(兵庫)等の大型物件を受注しました。



ダストビット Uタイプ(DPU型)

電炉関連事業

ロール業務

鉄鋼向け熱延用中型ロールおよび厚板用大型ロールが販売数量・売上高ともに好調に推移し、また、製紙向けロールは、前年下期に引き続き、当第2四半期に大型設備を納入したことから、ロール業務全体での実績は、前年同期比で大幅な増収増益となりました。なお、売上高については、半期ベースで過去2番目の実績となりました。

ロール業務では前期に引き続き製紙用大型設備を納入 グレーチング業務では収益改善もあり、増収増益

技術提携先の独・アンドリッツキュスターズ社より営業権譲渡を受けた韓国、台湾の各ロール市場についても、拡販に注力します。



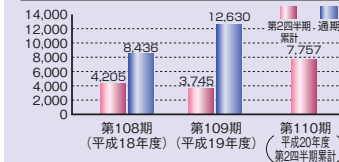
大手製紙会社への納入設備

電炉関連事業

主な製品

鉄鋼用ロール、製紙用ロール、グレーチング

売上高推移 (百万円)



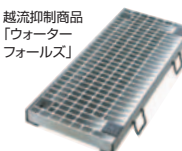
グレーチング業務

原材料価格の高騰、工事物件の減少など土木・建設を取巻く市場環境の厳しい中、値戻しと販売数量の維持に努めました結果、前年同期比で増収増益となりました。

なお、越流抑制グレーチングのウォーターフォールズは、異常気象(ゲリラ豪雨)

対応製品として、その仕様や、試験的な施工等についての問合せが増えています。

越流抑制商品「ウォーターフォールズ」



●標準仕様

●越流対策仕様



投雪専用グレーチング「かるがるグレーチング」

その他の事業

不動産部門においては、当期は不動産の販売実績はありませんが、

不動産賃貸により引き続き安定的な収益を確保しました。

● 淀川製鋼グループの海外戦略を担う先駆者として

盛餘股份有限公司(センユースチール社)

盛餘股份有限公司(以下、センユースチール社)は、1973年に設立された台湾の鉄鋼メーカーです。淀川製鋼所はセンユースチール社の事業の本格化に伴い、1994年に同社の株式の過半数を取得して、海外関係会社として子会社化。また同社は1997年1月には台湾証券取引所に上場し、淀川製鋼グループの海外市場を展開する事業拠点として、その役割の重要性を増しています。

センユースチール社は、 表面処理鋼板における台湾のパイオニア。

センユースチール社は、台湾においていち早く表面処理鋼板を事業化した台湾唯一の日系鉄鋼メーカーです。特にメッキに関する技術においては、台湾のパイオニアと言えます。

当社の優位性は、異国の経営スタイルを取り入れながら当社独自の経営スタイルを築き上げてきたところにあります。

センユースチール社の設立は1973年ですが、1986年にはオーストラリアのCRA社が当社の株式49%を取得。翌年の1987年には淀川製鋼所も資本参加し、1994年には淀川製鋼所がCRA社の持ち株すべてを買い取り、当社を子会社化。現在の淀川製鋼所の持ち株比率は52.13%で、センユースチール社は名実ともに淀川製鋼グループの一員として歩んでおります。

また1997年には上場を果たし、現在、

台湾の鉄鋼業界において当社は優良企業の一つとして認識されております。

淀川製鋼所の技術やノウハウを取り入れ、 世界的評価を受けるまでに成長。

当社の生産設備は、淀川製鋼所で培われたさまざまな技術的知識が取り入れられています。

また、淀川製鋼所の大坂・呉・市川の各工場から派遣されたスーパーバイザーの技術指導により、安全衛生管理や品質管理、さらにはJK(自主管理)活動などについても、日本企業と同水準のノウハウが移管されております。その成果として、当社の高品質な製品の評価は、台湾国内にとどまらず、今では世界各国に広がっております。

当社の売上の約6割は輸出によるもので、その向け先は北米、中国を中心に、東南アジア、ヨーロッパ、ロシア、中南米、中近東などワールドワイドの広がりを見せております。

2008年度上期の実績は、前年同期比で 増収増益。売上高は過去最高を達成。

センユースチール社の2008年度上半期の経営環境は、台湾国内の需要の減退や原料価格の高騰を受け、大変厳しいものでした。しかしながら、当社は厳しい経営環境においても工場をフル稼働させるという戦略を持ち、高採算の薄ゲージ製品の比率を上昇させました。さらに原料価格の高騰を主要因としたコスト上昇圧力を販売価格に転嫁するよう努めました。

その結果、2008年度上期売上高は、史上最高売上高を達成した前年度上期を上回る実績となりました。

利益面では、第1四半期は販売価格見直しの効果がまだ見られなかったものの、第2四半期に入りその効果が表れ、利益獲得に結びつきました。

台湾人総経理が誕生

2008年6月、当社では初の台湾人総経理(社長)が誕生いたしました。日本の経営スタイルの優れた点を取り入れながら、「台湾企業であり、台湾人による会社」としてより一層の現地化を目指してまいります。



董事長
大森 豊実

SYSCO 盛餘股份有限公司
SHENG YU STEEL CO., LTD.

会社概要

社名：盛餘股份有限公司
センユースチール社
設立：1973年
資本金：32億1,180万元
従業員数：約570名

(主要設備)

連続式酸洗設備……………1基
冷間圧延設備……………2基
連続式溶融亜鉛メッキ設備……………2基
連続式塗装設備……………2基
(主要製造品目)
冷延鋼板 溶融亜鉛メッキ鋼板 ガルバリウム鋼板 カラー鋼板

台湾ならびに中国への拡販により 製品面における競争力を強化。

通期の見通しについては、台湾においてもさらなる金融不安から景気後退の加速や需要減退、製品価格の下落等の影響を受け、より厳しい経営環境が続くと予測されます。

そのような状況の中、センユースチール社といたしましては製品の品質向上と生産効率を高めることで、より一層の利益獲得を目指してまいりたいと考えております。

当社は製品面において、設立当初から製品の高付加価値化を追求し、台湾鉄鋼業界の先陣を切って製品のガルバリウム(GL)化を推進してまいりました。特に1990年発売のGLカラー鋼板「カラーストロング」は業界のトップブランドにまで成長し、品質の高い製品として認知されております。

また家電・パソコン関連ユーザー向けに2004年に開発いたしました鋼製ケーシング用メッキ鋼板は、台湾ならびに中国でのシェアを順調に拡大してきました。

これらの製品の拡販を努力する一方で、利益面を飛躍させていくには、各製品の製造工程に応じた生産効率の向上が必須であると私は考えております。

当社は、そのための一つの考え方として、生産ラインを上工程、下工程に分け、上工程の一部の改造に現在5億元以上の設備投資を行っております。2009年9月には新しい上工程が稼働する予定ですので、生産能力のさらなる増強を期待しております。下工程の設備投資につきましては、今後の検討課題としております。

また近年は中国に台湾企業の進出がめざましくなっております。そのため、当社のお客様サービスの一環といたしまして、2008年11月、中国にコイルセンターを新設いたしました。

積極的な地域との共生で 地元高雄市の企業として社会貢献。

センユースチール社は、「社会から受けた恩恵は、社会に還す」という方針のもと、地元

高雄市の企業として積極的に社会貢献活動を行っております。

高雄市の主要幹線道路である中山路の分離帯にある花壇は10年以上にわたり当社が維持し、街の美化運動に努めております。

2005年には、高雄市消防局に消防車を寄付。2006年と2007年には将来を担う子供たちの教育に貢献するため、地域の小学校にコンピューター設備を寄付いたしました。

さらには、国際都市を目指して2009年に高雄市で開催される「2009年高雄ワールドゲームズ」に民間企業の先陣を切って協賛。高雄市の国際的知名度の向上にもひと役買ってまいります。

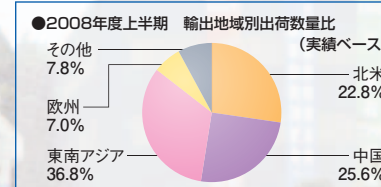
当社は今後も社会貢献活動や地域との交流を継続して行い、企業市民としての役目を存分に果たしてまいります。

同時に、真の意味での「世界一の評価と信頼を得る表面処理鋼板メーカー」を目指してまいります。



台湾への地域貢献

地域貢献に対し、高雄市長より感謝状を贈られるなど、センユースチール社の社会貢献活動は高い評価をいただいております。またその活動は台湾国内にとどまらず、多くの顧客が存在する中国の四川省で発生した大地震の被災者に対しても300万元の寄付を行いました。今後も高雄の企業市民として、あらゆる面で社会貢献活動を継続してまいります。



センユースチールTOPICS

さまざまな認証を取得

センユースチール社は、1991年から外部機関の認証取得を積極的に進め、JIS、CNS(中華民国工業標準規格)をはじめCNLA(中華民国国家実験室認証)、ISO-9001、ISO-14001等さまざまな認証を取得。中でもCNLAの認証数は、同業者の中で最も多く取得しております。

活発なJK活動「団結圏」

品質管理や生産効率の向上を推進するための活動として、積極的に台湾のJK活動にあたる「団結圏」を活発に行っております。当社の活動は、台湾において非常に高い評価を受けており、全国大会においても多数の入賞経験がございます。

連結決算の概要

科 目	当中間期	前 期	科 目	当中間期	前 期
	平成20年9月30日	平成20年3月31日		平成20年9月30日	平成20年3月31日
資 産 の 部	209,205	206,860	負 債 の 部	51,696	48,771
流動資産	112,030	105,743	流動負債	36,266	31,525
現金及び預金	13,296	13,057	支払手形及び買掛金	22,791	19,659
受取手形及び売掛金	43,862	48,318	短期借入金	2,029	702
有価証券	7,293	4,720	その他	11,445	11,163
棚卸資産	35,539	34,596	固定負債	15,430	17,246
その他	12,255	5,372	退職給付引当金	7,526	7,455
貸倒引当金	△215	△322	役員退職引当金	72	69
固定資産	97,174	101,116	その他	7,831	9,721
有形固定資産	57,103	57,064	純資産の部	157,508	158,088
建物及び構築物	17,787	18,170	株主資本	135,949	134,003
機械装置及び運搬具	18,185	17,830	資本金	23,220	23,220
土地	18,742	18,798	資本剰余金	23,772	23,776
その他	2,387	2,265	利益剰余金	96,387	94,436
無形固定資産	392	417	自己株式	△7,431	△7,430
投資その他の資産	39,678	43,634	評価・換算差額等	6,124	8,531
投資有価証券	36,398	40,505	その他有価証券評価差額金	6,299	8,679
その他	3,324	3,181	土地再評価差額金	1,367	1,422
貸倒引当金	△44	△52	為替換算調整勘定	△1,542	△1,570
			新株予約権	73	48
			少数株主持分	15,360	15,504
資 産 合 計	209,205	206,860	負債及び純資産合計	209,205	206,860

科 目	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等				新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計			
平成20年3月31日残高	23,220	23,776	94,436	△7,430	134,003	8,679	1,422	△1,570	8,531	48	15,504	158,088
中間連結会計期間中の変動額												
剰余金の配当			△1,822		△1,822							△1,822
利益処分による役員賞与金等			△24		△24							△24
中間純利益			3,841		3,841							3,841
自己株式の取得				△18	△18							△18
自己株式の処分		△4		17	12							12
土地再評価差額金の取崩額			28		28							28
在外子会社の会計処理の統一に伴う調整			△71		△71							△71
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△2,380	△54	27	△2,406	24	△143	△2,525
中間連結会計期間中の変動額合計		△4	1,950	△0	1,945	△2,380	△54	27	△2,406	24	△143	△580
平成20年9月30日残高	23,220	23,772	96,387	△7,431	135,949	6,299	1,367	△1,542	6,124	73	15,360	157,508

個別決算の概要

科 目	当中間期	前中間期
	平成20年4月1日から平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から平成19年9月30日まで
売 上 高	108,400	101,139
売 上 原 価	91,846	86,507
売 上 総 利 益	16,554	14,632
販売費及び一般管理費	8,324	8,440
営 業 利 益	8,229	6,191
営業外収益	1,122	1,478
営業外費用	385	405
経 常 利 益	8,966	7,264
特 別 利 益	139	34
特 別 損 失	1,003	708
税金等調整前中間純利益	8,102	6,591
法人税、住民税及び事業税	3,717	1,673
法人税等調整額	△330	260
少数株主利益	874	928
中 間 純 利 益	3,841	3,729

科 目	当中間期	前中間期
	平成20年4月1日から平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から平成19年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,514	2,747
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,421	△819
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,547	744
現金及び現金同等物に係る換算差額	92	42
現金及び現金同等物の増減額	10,638	2,715
現金及び現金同等物の期首残高	16,850	20,199
現金及び現金同等物の中間期末残高	27,488	22,915

科 目	当中間期	前 期	科 目	当中間期	前 期
	平成20年9月30日	平成20年3月31日		平成20年9月30日	平成20年3月31日
資 産 の 部	170,902	170,140	負 債 の 部	39,100	37,909
流動資産	88,253	82,941	流動負債	30,562	27,725
現金及び預金	9,266	9,407	支払手形及び買掛金	18,693	15,164
受取手形及び売掛金	37,764	41,447	その他	11,869	12,560
有価証券	6,407	4,210	固定負債	8,537	10,184
棚卸資産	23,160	22,568	退職給付引当金	4,606	4,659
その他	11,658	5,312	その他	3,930	5,524
貸倒引当金	△4	△4			
固定資産	82,649	87,199			
有形固定資産	34,611	34,752			
建物及び構築物	11,616	11,827			
機械装置及び運搬具	8,903	8,793	純資産の部	131,802	132,231
土地	12,880	12,879	株主資本	125,505	123,625
その他	1,210	1,252	資本金	23,220	23,220
無形固定資産	197	226	資本剰余金	23,724	23,728
投資その他の資産	47,840	52,220	利益剰余金	87,284	85,401
投資有価証券	30,569	34,999	自己株式	△8,724	△8,725
関係会社株式	15,788	15,788	評価・換算差額等	6,223	8,557
その他	1,483	1,432	その他有価証券評価差額金	6,223	8,557
貸倒引当金	△0	△0	新株予約権	73	48
資 産 合 計	170,902	170,140	負債及び純資産合計	170,902	170,140

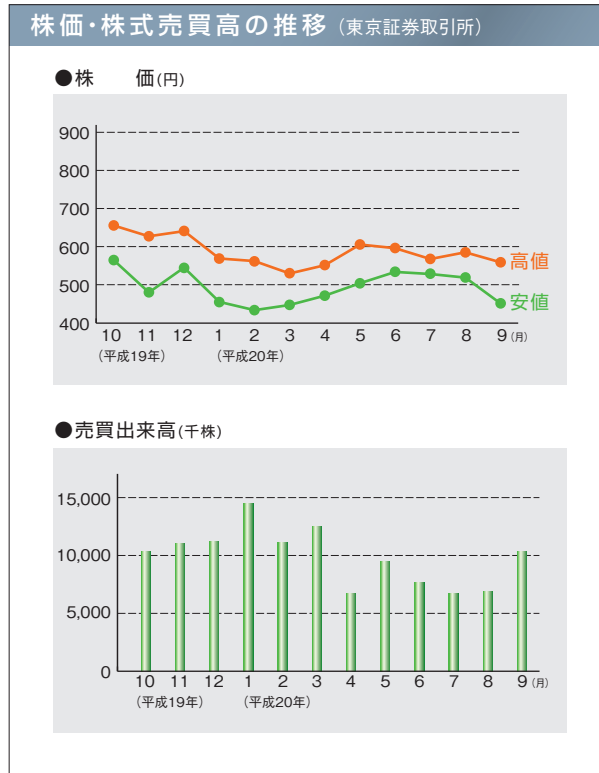
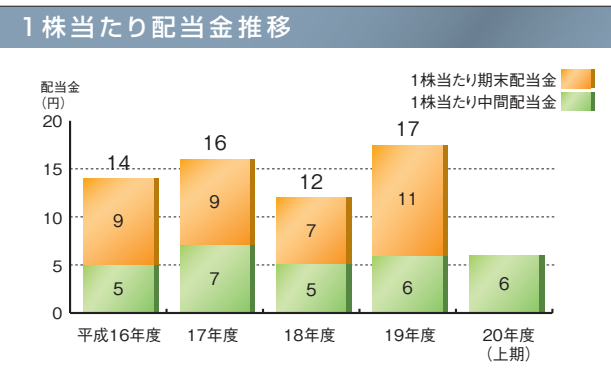
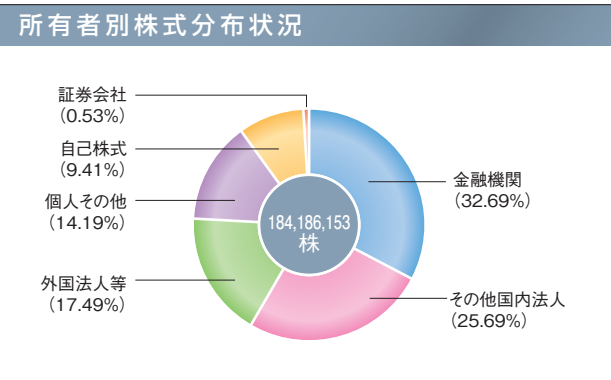
科 目	当中間期	前中間期
	平成20年4月1日から平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から平成19年9月30日まで
売 上 高	67,744	57,642
売 上 原 価	55,947	47,830
売 上 総 利 益	11,797	9,811
販売費及び一般管理費	6,438	6,228
営 業 利 益	5,358	3,583
営業外収益	1,938	3,022
営業外費用	238	204
経 常 利 益	7,058	6,401
特 別 利 益	10	307
特 別 損 失	867	626
税引前中間純利益	6,201	6,082
法人税、住民税及び事業税	2,706	1,025
法人税等調整額	△222	1,564
中 間 純 利 益	3,718	3,493

株式の概要 [平成20年9月30日現在]

株式の状況	
発行する株式の総数	753,814,067株
発行済株式の総数	184,186,153株
株主数	9,466名

大株主 (上位7社)		
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,609	4.13
みずほ信託銀行株式会社	5,470	2.96
株式会社りそな銀行	5,342	2.90
株式会社みずほコーポレート銀行	5,310	2.88
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー-505019	4,400	2.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	4,381	2.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,058	2.20

(注)当社は、自己株式17,340千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。



会社の概要 [平成20年9月30日現在]

当社の概要		
社名	株式会社淀川製鋼所	
設立	昭和10年1月30日	
資本金	23,220,815,228円	
従業員数	1,350名	

当社の主な事業所	
本社	〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号 06-6245-1111
支社	〒104-0041 東京都中央区新富一丁目3番7号 03-3551-1171
営業所	札幌、盛岡、仙台統括、新潟、長野、高崎 東京統括、横浜、静岡、北陸、名古屋統括 大阪統括、神戸、岡山、福山、広島 高松統括、高知、八幡、福岡統括、鹿児島
工場	大阪(大阪府)、呉(広島県) 市川(千葉県)、福井(福井県) 泉大津(大阪府)

当社の主な関係会社	
● 連結子会社	
高田鋼材工業株式会社	鋼板の加工および販売
盛餘股份有限公司(センユースチール社)	鉄鋼製品の製造および販売
白洋産業株式会社	鉄鋼卸業、運送業
京葉鐵鋼埠頭株式会社	倉庫業
ヨドコウ興発株式会社	ゴルフ場等経営および不動産賃貸
● 持分法適用関連会社	
株式会社佐渡島	鉄鋼卸業

当社の役員		
取締役 執行役員		
代表取締役社長	國保 善次	
代表取締役 専務執行役員	重廣 紀義	
取締役 常務執行役員	寺田 剛尚	
取締役 常務執行役員	辻 克己	
取締役	石田 榮次	
	上席執行役員	大森 眞
	上席執行役員	遠山 巽
	上席執行役員	大森 豊実
	上席執行役員	西村 修
	上席執行役員	河本 隆明
	上席執行役員	向井 信正
	執行役員	澤田 滋
※石田榮次氏は会社法に定める社外取締役です。		
監査役		
監査役(常勤)	今村 靖雄	
監査役(常勤)	天谷 薫	
監査役	今西 康訓	
監査役	湯浅 光章	
※今西康訓および湯浅光章の両氏は会社法に定める社外監査役です。		